

1. 大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム「長期プロジェクトコース」
2. 株式会社大槻シール印刷様

3 谷川響太
西井佳音
田中颯真

4 2021年 11月 11日

5 プロジェクトの活動内容と成果物

私達は株式会社大槻シール印刷さんの「若者の感性を取り入れたシールの商品開発やマーケティングを取り入れ、キーワードを持ったシールを2, 3個制作する」という課題に対して四点のプロセスから課題解決できると私たちは考えました。四点のプロセスとは一つ目はシール製作、二つ目は中信ビジネスフェアへの参加、三つ目はポスター・チラシ製作、四つ目はアンケート製作というものです。そこからそれぞれに担当を振り分け、各自で課題に取り組みました。

谷川のシール製作ではおもしろいシールを課題解決の目標として定め、シールの商品開発に臨みました。まず、世の中にはどのようなシールがあるのかをインターネットを用いて調べ、そこからシール制作のアイデアにつながるものがあるのではないかと考えました。又、アイデア出しではいくつかの方法を用いて制作を行った。その一つがマインドマップです。マインドマップを使い、シール制作のアイデア出しを行いました。しかしながら案はいくつも出たがそこからおもしろいと思うようなシール案は出なかった。二つ目はブレインストーミングです。ブレインストーミングではいくつか良い案は出たが、他の企業がすでに商品として出していたのでシール案は決まらなかった。3つ目は、自分の経験からシールのアイデアが出ないかと考えそこで思いついたのが、魚の障子シールでした。障子シールは動物や葉っぱ、花型のシールがあるがそこからアイデアを膨らませられないかと考え、そこから魚の障子シールというアイデアまで至りました。9月4日に大槻会長にアイデアを発表させて頂き、もっとアイデアを具体的にしてほしいとアドバイスを頂きました。最初は大中小の三種類の魚で様々な障子の穴に対応することが可能だと思っていたのですが大槻会長や中信ビジネスフェアのアンケートをもとにもう少し魚の種類を増やすことにさせて頂きました。日本で障子が減少しているという状況を鑑み、魚の障子シールは障子に貼るだけでなく、壁などに貼れるようなデザインにさせて頂きました。また、写真のままでは著作権に引っかかる可能性があるというアドバイスを頂き、そこから商用可能なフリー素材を用いて制作させて頂きました。アンケート制作ではグーグルフォームでアンケートを二種作成する予定でしたが、一つ目は、SNS のアカウントを用いてシール制作のアイデアを募集するというものでしたが、大学生が必ずしもアンケートに答えて貰えるとは限らず、またアンケートを実施しそこからシール制作をすることによってそこに私たちが考えたアイデアといえるのだろうかという2つの観点から、このアンケートを中止することにしました。

二つ目は、中信ビジネスフェアに参加する際に私たちの制作したシールに対してのフィードバックをするためにアンケートを作成、実施しました。最初はほかの人のアイデアが出ていなかったこともあり、そこまで具体的な内容ではなかったが大槻会長やほかの二人から意見やアドバイスをいただいて具体的な内容にすることができました。

3つ目は中信ビジネスフェアに参加するにあたって、自分たちの制作したシールを紹介するために作成したポスターです。ポスターはパワーポイントで制作し、内容としてシールの紹介と顔写真、そして私たちが株式会社大槻シール印刷さんにインターンシップとして参加しているという内容のポスターを制作させて頂きました。

4つ目は、10月7日に中信ビジネスフェアに参加させて頂いたことです。そこで株式会社大槻シール印刷さんの取引のある企業様に挨拶へ行かせて頂き、また他の企業様のところへ行かせて頂くことができ、そこで私たちの制作したシールやアンケートの宣伝をさせて頂きました。又、株式会社大槻シール印刷さんのブースにて、アンケートも実施させていただき、10月7日には9人の方々からアンケートの回答を貰うことができ、それぞれの制作したシールのブラッシュアップに充てることができました。

〈シール作成・西井〉

シールの発案の際、私はロジカルシンキングとアートシンキングの2点のシンキング方法でシール案の発案を行いました。まず、1点目のロジカルシンキングでは、Who と For を設定しました。Who は、誰に。For は、何のためにその商品を作るのかを明確にするもので、私は学生に対してシールを使ってもらうために1つ目のシールを開発することに決めました。WhoFor を設定した後は、STP の順番で細かいことを策定しました。まずは、セグメンテーションです。学生という大枠の中でも小学生や中学生、高校生、大学生と人口動態的変数を使って細かくセグメンテーションを行いました。また、同じ人口動態的変数では性別、行動的変数では使用頻度、シールに対して否定的や無関心などの態度の面でもセグメンテーションを行いました。実際に細かく分けたセグメントの中から、大学生・女性・普段はシールを使わず、シールに対して無関心・消極的な人をターゲットとしてペルソナに設定しました。ポジショニングでは、大学生の出しやすいく低価格でかつユニークな商品を作ることに決めました。そんな考えから生まれたのが、思ひ出 QR シールでした。DropBox というアプリを使い、共有フォルダを作って、その共有フォルダを QR コード化して思い出をシールを使って共有できる世界に一枚のシールを作ろうと考えました。そこからはデザインを作成し、思い出を届けるという観点から手紙の形のデザインを採用しました。実際に、完成した思ひ出 QR シールは「渡したのは一枚のシール 届けたかったのは貴方との思ひ出」というコンセプトでチラシを作成し、中信ビジネスフェアで沢山の方に感想を頂く事が出来ました。ただ、この商品は共有リンクを作ってからしかシールの作成ができないため、実際に商品化するのには難しいという結論になりました。今後もし、このシールを商品化する機会があるのなら、結婚式やイベントなど連絡先を交換しなくても写真が共有できることをベネフィットとして売り出していきたいと考えています。続いてのシールは、アートシンキングで考えました。アートシンキングとは、いわゆるひらめきのことでロジカルではなく、思いつきや発想でつくる考え方のことです。私は、アートシンキング法で「シールを使って楽しく防災ができれば！」と考えました。というのも、実は私は1年生の頃に別のインターンシップで岩手県に1ヶ月間滞在しており、その時に岩手県に未だなお残る東日本大震災の爪痕や地元の方の震災当時のお話を聞いて、震災の悲惨さや風化の切なさを痛感していたのです。この経験があり、私の中に岩手や東北のために、これから先震災で悲しむ人が一人でも減るよという思いがあったからこそ、シールで楽しく避難訓練ができるというアイデアが思いついたのだと思います。この案を思いついた当初は、A4の一枚のシールで○×のシールにしようということぐらいしか考えていなかったのですが、現役保育士の友人に相談したところ、「絵よりも文字の方が分かりやすい子もいるよ！」「避難訓練は、毎月あるけど正直全員が真剣に取り組むのは難しいし、本当に大切さを分かっていない子が多いと思う」という意見をもらったことで、地震の時の約束をシールにするというブラッシュアップを加えるとともにシールで防災ができることはとても大きな潜在ニーズがあるのではないかと考えるようになりました。また、中信ビジネスフェアでは4.50代でお子さんのいらっしゃる社会の方が多かったため、保護者視点でのアドバイスを沢山頂きました。「手で持ちやすい方が良い。」や「いろんなところに貼ってしまうので、何度も貼り直せる方が良い。」などの意見を頂いたので、再剥離のシールに変更し、シール台紙もA4サイズから子供たちでも持ちやすいA5サイズに変更しました。これからは、価格設定などの細かい部分を加え、実際の商品化まで頑張っていきたいです。

〈SNS 運営・西井〉

SNS ツールは多くあるので、インスタグラム・Twitter・ティックトックなどの比較分析を行って会長にプレゼンテーションをさせて頂きました。実際に、インスタグラムでは4回投稿を行い、商品やイベントの紹介を行うことができました。今後も是非株式会社大槻シール印刷のプロモーションツールとしてインスタグラムを活用して頂ければと思います。

田中颯真 シール作成では若者の感性を活かした。大学生らしいシールの開発を目指しました。 そのために、まず初めにスーパーの半額のシールやペットボトルのラベルのデザインなど、どのような印刷などがされているのかを株式会社大槻シール印刷様に訪問させて頂くまでに、スーパーやコンビニなどを見に行き、どのようなシールがあるのかを調べました。

そこからシールをどのようなものにするのかを考えていきました。

そこで考えついたのが京都の良さを知ってもらおうと思い、一つ目は都道府県の特産品のシールを思いつきました。

近畿地方など地域を決めてランダムでその都道府県の特産品のシールを開発する予定でしたが、あと一工夫が中々浮かばなかったため、他のアイデアを考えることにしました。

二つ目は都道府県の偉人とゆかりの地のシールを考えました。このアイデアは自分が今現在大学でなっていることで何かシールにできるようなことはないかと思ったのが一つと、二つ目は京都歴史があるので歴史的建造物などが数多くあるからです。

なかなか良い案が浮かばず大槻会長にどのように、誰に売なのか、買った人はどのようにシールを使うのかなどアドバイスを頂きそこから、歴史に興味がある人だけでなく、観光に来た人に対してコレクション要素を加えてみて各都道府県偉人とゆかりの地シールを集めてもらおうと考えました。まだ未完成で私の要望したことを形にして頂いたため、まだまだ改良していけるので、もう少しだけ株式会社大槻シール印刷様にアイデアをご提案させていただければと存じます。

チラシ・ポスター作成では中信ビジネスフェアでインターンシップ生の各々考えた。

シールと株式会社大槻シール印刷様のシンボルマークのシールをご提案させていただき予定でしたが間に合いませんでした。 インターンシップの時間外となってしまいますがアイデアをご提案させていただければ幸いです